# 特集2
# 開通から10周年を迎える「鷹島肥前大橋」

松浦市にとって福岡方面からの玄関口でもある鷹島町に、市民をはじめ、周辺住民の悲願であった「鷹島肥前大橋」が、平成21年4月18日に開通しました。

特集では、開通10周年を記念して開催された「鷹島肥前大橋ウォーキング大会」と「記念イベント」などについて、お知らせします。

## 大橋開通への道のり

豊かな自然に恵まれて、玄海国定公園の一部にも指定されている鷹島。大橋の架橋前の当時、元寇の史跡や、トラフグ、阿翁石など、貴重な資源を有する島でありながら、離島であるがゆえの交通の不便さなどから、その資源が十分に生かされないという悩みを抱えていました。

なんとしても鷹島に橋を架け、さまざまな不便さや不安を解決したい。また鷹島にしかないこの貴重な歴史文化を生かして、何とか島の活性化につなげたい。島民の熱い思いが、昭和63年の鷹島大橋架橋促進期成会設立につながり、島民の大きな希望へと膨らみました。

この期成会設立が契機となり、大橋架橋に向けて本格的に動き出し、それから20年の歳月がたった平成20年7月、大橋に最後の橋げたを取り付ける工事が行われました。

多くの島民たちが見守る中、県境を越えて工事が進んでいた大橋が、ひとつにつながった瞬間でした。

そして、平成21年4月18日、盛大なセレモニーのなかで開通を迎えました。

開通式には、長崎・佐賀県の関係者など約400人が出席。唐津市肥前文化会館で式典が行われた後、大橋でテープカットとくす玉割りをし、開通を祝いました。

## 鷹島大橋開通10周年記念ウォーキング大会

鷹島肥前大橋ウォーキング大会（松浦市主催）が6月8日、鷹島町で開催されました。

このイベントは、4月18日に鷹島肥前大橋が開通10周年を迎えたことから、大橋への感謝を込めて、開催されたものです。

鷹島スポーツ・文化交流センターから大橋を折り返す約8.4キロのコースを、県内外から参加した約300人が、思い思いに満喫しながら歩きました。

鷹島肥前大橋は、長さ1,251メートルで、高さ105メートルの2本の主塔からケーブルで橋げたを支える斜張橋。2本の主塔間は400メートルで、斜張橋としては長崎市の女神大橋に次いで九州で2番目の長さになります。

ウォーキング大会で、心地よい海風を受け、美しい景色を眺めながらコースを完歩した鷹島中学校1年の坂 紀香さんは「友達と話しながら歩いたので楽しかった。最後まで歩けたのでよかった」と話しました。

道の駅「鷹ら島」につくられたステージ周辺では、地元保存会による元寇太鼓やよさこい踊り、鷹島保育園の園児による踊りなどのイベントや、特産品の販売、マグロの解体ショーなどがあり、たくさんの人で賑わいました。

また、企画展「大碇展示10周年展～鷹島肥前大橋開通10周年記念～」を開催中の市立埋蔵文化財センターの入館無料開放、島内の各施設では、鷹島小中学生の鷹島肥前大橋に関する絵画や作文の展示なども併せて行われました。

## 「島踊り」を披露

ゴールの鷹島スポーツ・文化交流センターでは、県指定無形民俗文化財の「鷹島の島踊（しまおどり）」を構成する芸能のひとつである勇壮な「六本幟（ろっぽんのぼり）」が披露されました。

六本幟は、10年前の鷹島肥前大橋開通時にも道の駅「鷹ら島」で披露されています。

島踊り行列の先頭に立つ六本幟、島踊りの原形は、元寇の際の戦勝祝いに始まると伝えられています。

その後、時の経過とともに、島踊りの目的も立願成就や、江戸末期には雨乞い踊りへと変化していったとされています。

## これからへの想い

島民の思いが詰まった鷹島肥前大橋。開通式に三代渡り初めをした都市利満（としみつ）さん（鷹島・神崎）は「橋を歩きながら、これからは離島で無くなり、潤う島になると喜びで胸が一杯になった」と当時を懐かしんで話しました。

「鷹島肥前大橋」は、これからも鷹島と本土を結ぶ希望の橋となり続けます。